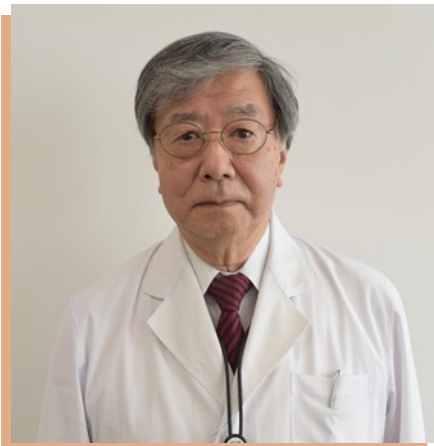




地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

【おんが病院・おかがき病院統括院長 挨拶】



今の日本には四季は感じにくく、暑さの厳しい夏と寒さが身にしむ冬の二つしかなく、そのはざまに春と秋がひっそりと身を潜めているように感じます。今年も春は駆け足で過ぎ去り、夏が間近です。

さて、日頃からおんが病院、おかがき病院にご高配をいただき、感謝申し上げます。両病院とも新しいスタッフを迎え、コロナ明けに備えて種々の準備をしていきます。

まず、皆様に謹んでご報告申し上げたいことは、長年統括院長を務められてきました杉町圭蔵先生が管理者に昇任され、両病院を大所高所から管理し、指導していただきます。その後任の統括院長には不肖私がおかがき病院総院長から転任いたしました。末廣剛敏前統括副院長がおかがき病院の総院長に就任いたしました。なお、新たにおんが病院の副院長には吉田哲郎循環器内科部長が就任し、おかがき病院では地域総合支援センター長に桑野博行が新たに着任いたしました。この4月から診療体制で新しいことは、おんが病院で皮膚科の診療を行うことです。

さて、私自身のことにつき、申し述べます。私は長崎大学を1971（昭和46）年に卒業しました。九州大学第二外科に入局し、消化器外科、とくに肝臓外科を専攻してきました。九州大学に20年間お世話になり、1991年から2011年間での約20年間長崎大学第二外科に奉職いたしました。

定年で退任した後は、長崎市立病院機構に勤務しました。長崎みなとメディカルセンター院長を約8年間務め、2019年4月から遠賀中間医師会おかがき病院に3年間お世話になり、この4月におんが病院に転任してきました。

地域の皆さんには何かとお世話になりますが、おかがき病院時代と同様、よろしくご指導くださいますよう、お願いを申し上げます。

おんが病院・おかがき病院統括院長 兼松 隆之

2022年10月より専門外来の新設のお知らせ

診療科【骨粗鬆症外来】

担当医師：藤原 悠子
診療日：木曜日
外来診療時間：9：00～12：00
場 所：診察室6



2023年4月より専門外来の新設のお知らせ

診療科【皮膚科】

担当医師：豊田 美都
診療日：月曜日
外来診療時間：13：00～16：00
場 所：診察室6



【おんが病院 新副院長 挨拶】

With/After コロナ時代を乗り越えていく

ここ数年は私たちが経験したことがありませんでしたコロナ禍における医療をおこなってまいりました。多くの経験が初めてのことであり、振り返ってみますと実践してきた選択肢がすべて正しかったのか不安になることもしばしばございます。一方で新たな抗ウイルス薬が市場にでたこと、またワクチン接種が地域差あるとはいえ、諸先生方のご尽力で進んでいることで日々の生活を取り戻しつつもあります。

このコロナ禍で失われたものは多くございますが、その中でも諸先生方と face to face の関係を維持することが困難になったことが最も大きな損失であったと考えます。これまで構築されておりましたシステムが変化したことで、紹介・逆紹介率も低下いたしました。令和5年度の目標としては、まず諸先生方との強固な関係を再構築すること、紹介・逆紹介率の向上させることを達成したい所存です。

本年度は新たに消化器科 唐 千暁先生、整形外科 倉本 孝文先生、呼吸器外科 鈴木 雄三先生を迎えこれまで以上に診療体制を充実しています。

当地域住民のためにより安心して生活できる医療体制を整えていきます。

今後も温かいご支援のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

おんが病院副院長 吉田 哲郎

おんが病院 新任医師紹介



呼吸器外科部長
すずき ゆうぞう
鈴木 雄三

この度、呼吸器外科に着任しました鈴木 雄三(すずき ゆうぞう)と申します。

平成 22 年に九州大学を卒業後、九州大学病院で研修を行い、九州大学消化器・総合外科へ入局し外科および呼吸器外科を専門として研鑽を積んでまいりました。直近では製鉄記念八幡病院にて勤務しておりました。診療を行う上では、患者さん一人ひとりに丁寧な診察を行い、その方に最適な治療法を提供することを大切にしています。

また、手術を要する場合には、安全かつ確実な手術を行うことを心がけています。おんが病院では肺や気管支、胸膜などの疾患に対する診療を急性期から慢性期まで幅広く対応いたします。肺癌を含む肺腫瘍や気胸、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎など、何かお困りのことがあれば、いつでも気軽にご相談ください。よろしくお願いいたします。



くらもと たかふみ
倉本 孝文

2023 年 4 月より整形外科に勤務となりました倉本 孝文(くらもと たかふみ)と申します。

久留米大学を卒業し、福岡の済生会病院で研修後九州大学の整形外科へ入局しました。その後浜の町病院、九州大学病院、九州医療センター、小倉記念病院を経て当院へ赴任しました。骨折等の外傷をはじめ、腰痛や下肢のしびれなど 丁寧な診察を心がけています。

少しでも地域の皆さまのお役に立てるよう努めて参ります。

何卒よろしくお願いいたします。



とう ちあき
唐 千暁

2023 年 4 月よりおんが病院消化器内科勤務となりました唐 千暁(とう ちあき)と申します。生まれは久留米です。宮崎大学に入学し、大学在学中はボート部に所属、おんがレガッタにも参加させていただきました。

卒業後は下関市立市民病院・九州大学病院勤務を経て当院へ参りました。

まだまだ勉強の日々ではありますが、何かお困りの際には気軽にご相談いただければと思います。地域の皆様のお役に立てるよう精進いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



2023年4月1日付で兼松隆之先生の後任としておかがき病院の総院長を拝命しました末廣剛敏（すえひろ たけとし）です。これまではおんが病院・おかがき病院の統括副院長として副院長を兼務していました。改めてよろしくお願いいたします。

実家は八幡西区香月にある有床診療所で、父のあとを弟の末廣尚久が次いでいます（suehiro-clinic.com）。地元の楠橋小学校から明治学園中学校に進み、

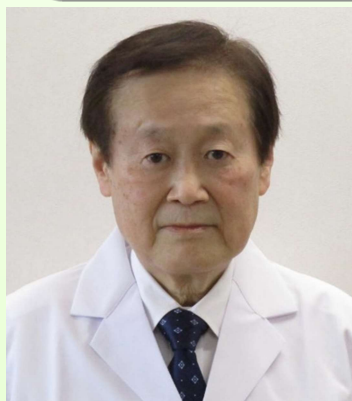
松山の愛光高校に進学しました。医師会では加藤哲也先生、原崇先生が同窓になります。その後九州大学を平成元年に卒業し杉町圭蔵先生が教授をされていた第二外科（消化器・総合外科）に入局しました。その当時の助教授が統括院長の兼松隆之先生で、最初の指導医が講師であった地域総合支援センター長の桑野博行先生でした。研修後移植研究室に進み米国マウントサイナイ医療センターに留学し肝臓移植の修練を行い九州大学消化器・総合外科、群馬大学病態総合外科（桑野博行教授）で肝臓移植、肝胆膵外科に従事していました。遠賀中間医師会とのかかわりは、父の体調悪化に伴い弟が実家を継ぐことになった2007年に実家に一番近い関連病院の新中間病院に赴任したときが始まりです。2010年に済生会八幡総合病院に異動しましたが、杉町先生に呼ばれて2011年5月よりおんが病院で紹介と救急車を断らない方針の救急総合診療科を始めました。救急専門医の黒坂先生が赴任されてからは、杉町先生が2013年から始めていた在宅医療を引き継ぎ、24時間365日対応する訪問診療に力を入れてきました。

おかがき病院には地域包括ケアシステムを構築する「医療」としての60床の「地域包括ケア病棟」と40床の「回復期リハビリテーション病棟」があるだけでなく、「介護」としてのショートステイ、認知症デイケア、通所リハビリテーションからなる地域総合支援センターを併設しており、これまでおんが病院で行ってきた在宅医療を併せることにより、さらに充実した地域包括ケアシステムを構築できると考えています。

このようにおかがき病院は在宅に特化した病院として医療と介護の連携を推進しコロナ後の地域の医療に貢献してまいりますので、これからもおかがき病院を何とぞよろしくお願いいたします。

私の座右の銘は「訥言敏行」と「照千一隅」で、これらを合わせて「自分の置かれた立場でやれることを全力で即実行する」で頑張っていきます。

おかがき病院 地域総合支援センター センター長



消化器科
くわの ひろゆき
桑野 博行

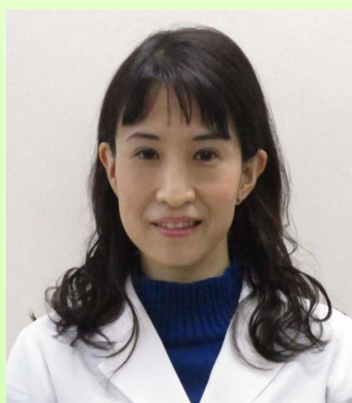
令和5(2023)年4月より、「地域総合支援センター、センター長」を拝命いたしました、桑野博行(くわの ひろゆき)と申します。

さて、私の簡単な自己紹介ですが、昭和53年に九州大学を卒業し、九州大学第二外科に入局し、同教室の助教授を経て、平成10年に群馬大学科学教室に教授として赴任し、食道外科を中心とした消化器外科を専門として約20年間務めた後退任し、平成30年4月から5年間、福岡市民病院・院長として勤務し、この度より「おかがき病院」に奉職させていただいている者です。

今後は、消化器疾患はもとより、あらゆる病態に対して幅広く、また地域の医療と健康の維持に少しでも貢献したいと考えております。

何卒宜しくご指導、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

おかがき病院：内科 ・ おんが病院：皮膚科



とよた みと
豊田 美都

2023年4月より、おかがき病院内科に勤務することになりました豊田 美都(とよた みと)と申します。内科外来では、地域の皆様のかかりつけ医として、発熱、咳、お腹の痛みや下痢などの急性症状から高血圧や糖尿病、コレステロールの異常などの生活習慣病まで幅広く対応いたします。

皮膚科外来では、アトピー性皮膚炎や慢性のじんましんなどに対し、体質改善を図りつつ薬を上手に使っていくためのアドバイスをさせていただきます。思春期に悩まされるにきびは、外用剤にくわえ漢方薬を併用すると効果的です。ほくろやシミは良性のものですが、似たような症状でまれに皮膚がんであることがあります。良悪性の判断のためにダーマスコピーという特殊な拡大鏡で皮膚の状態を詳しく検査することができますので、気になる症状があれば早めの受診をおすすめします。夏に増える

みずむしの診断には、顕微鏡を用いてきちんと調べたうえで薬を処方しています。保険診療で液体窒素によるイボの治療も行っております。

ところで、現代医療は臓器別に細分化されていますが、本来私たちの体は一つに繋がっています。発熱、頭痛などの内科的症状も”ふき出物”や”肌あれ”などの皮膚症状も、その多くは年齢に伴う体の衰えや、日々の忙しさによる睡眠不足などをきっかけに、自身の免疫力が低下することで起こります。皮膚症状は、目に見える形で現れる体からの一番わかりやすいサインと言えるかもしれません。虫刺されのような急性の症状なら薬ですぐに治りますが、慢性に続く症状は生活習慣(特に睡眠や食事)やストレスも大いに影響しています。薬で症状を抑えるだけでなく、生活習慣を見直したり、漢方薬を使って体質改善をはかったりと様々な角度からアプローチしていくと、諦めていた症状が改善することがあります。どんな症状も心や体からのメッセージ。検査をして原因をきちんと調べて必要な治療を受けるのはもちろんですが、これまでの生活やご自身の生き方を振り返るきっかけになさると、より健康に生きていけるように思います。

外来では、体全体を診る診療を心がけ、皆様が元気になるお手伝いをさせていただきます。お困りの症状がありましたら遠慮なくご相談ください。

発行日:令和5年6月吉日

発行:遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院

編集:おんが病院・おかがき病院広報委員会